



# 2025年3月期第2四半期 決算説明会

代表取締役 社長執行役員 森 拓也

2024年11月28日





# 目次

---

1. 2025年3月期第2四半期 決算概要	P. 3
2. 2025年3月期 業績予想	P. 13
3. 中期経営計画2022の進捗	P. 17
Appendix ご参考	P. 24



# 1. 2025年3月期第2四半期 決算概要



# 2025年3月期第2四半期 トピックス

## 建設投資全体としては名目値ベースでは前年度比で増加、実質値ベースでは微増と予測

- 2024年度建設投資額は、前年度比4.2%増の74兆700億円と予測  
– 政府分野投資額は、前年度比3.4%増の23兆3,900億円と予測  
– また、25年度政府分野投資額は、前年度比1.1%増の23兆6,400億円と予測  
– 民間建設投資のうち民間住宅投資額は、前年比1.9%増の17兆100億円、非住宅建設投資額は、前年度比3.8%増の17兆7,400億円と予測  
– また、25年度の民間非住宅建設投資額は、前年度比1.8%増の18兆600億円と予測
- 出典：「建設経済モデルによる建設投資の見通し」  
(一財) 建設経済研究所10月発行
- ※ ・政府分野投資とは、政府の総投資額（政府建設投資）から建築補修（改装・改修）を控除した投資額を表す  
・民間非住宅建設とは、民間非住宅建築と民間土木の合計であり、民間建築補修（改装・改修）は含まない
- 2024年度のPC市場は前年度並みと予測  
– 各高速道路会社の新設橋梁工事や大規模更新・修繕事業の補修・補強工事は、引き続き高水準で堅調に推移すると予測

## 各利益項目で中間期過去最高を記録

- 売上高は、潤沢な手持工事の進捗、関係会社増収影響で前期比増加  
– 全体で前年度比12.5%の増収、土木事業は3.5%、建築事業は27.0%の増収
- 売上総利益は、売上高の増加影響の他、設計変更獲得・原価改善等により前期より大幅増益  
– 利益額：前年度比21.8%増、利益率：前年度比1.3ポイント上昇(14.9%⇒16.2%)
- 売上総利益を含めた各利益項目は中間期業績として過去最高益を記録  
– 前年度比増加率：営業利益+73.6%、経常利益+78.2%、中間純利益+73.5%



# 業績サマリー

## 連結業績サマリー

(単位：百万円)

	2023.3期 2Q		2024.3期 2Q		2025.3期 2Q				コメント
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	業績修正値	業績修正値比	
売上高	47,540	△ 11.6%	57,669	21.3%	64,851	12.5%	63,000	2.9%	土木事業、建築事業共に前期比増収
売上総利益	7,044	△ 15.2%	8,613	22.3%	10,488	21.8%	9,500	10.4%	増収に伴う増益、土木事業で設計変更獲得による増益
営業利益	2,298	△ 42.4%	3,310	44.0%	5,747	73.6%	4,600	24.9%	売上総利益増加、販管費減少により増益
経常利益	2,287	△ 42.9%	3,220	40.8%	5,738	78.2%	4,700	22.1%	
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,497	△ 47.4%	2,151	43.7%	3,733	73.5%	3,100	20.4%	
1株当たり年間配当金 (円、銭)	-	(中間)	17.0	(中間)	22.0	(中間配当)			
	33.0	(年間)	44.0	(年間)	44.0	(年間配当予定)			

<売上高>



<営業利益>



<経常利益>

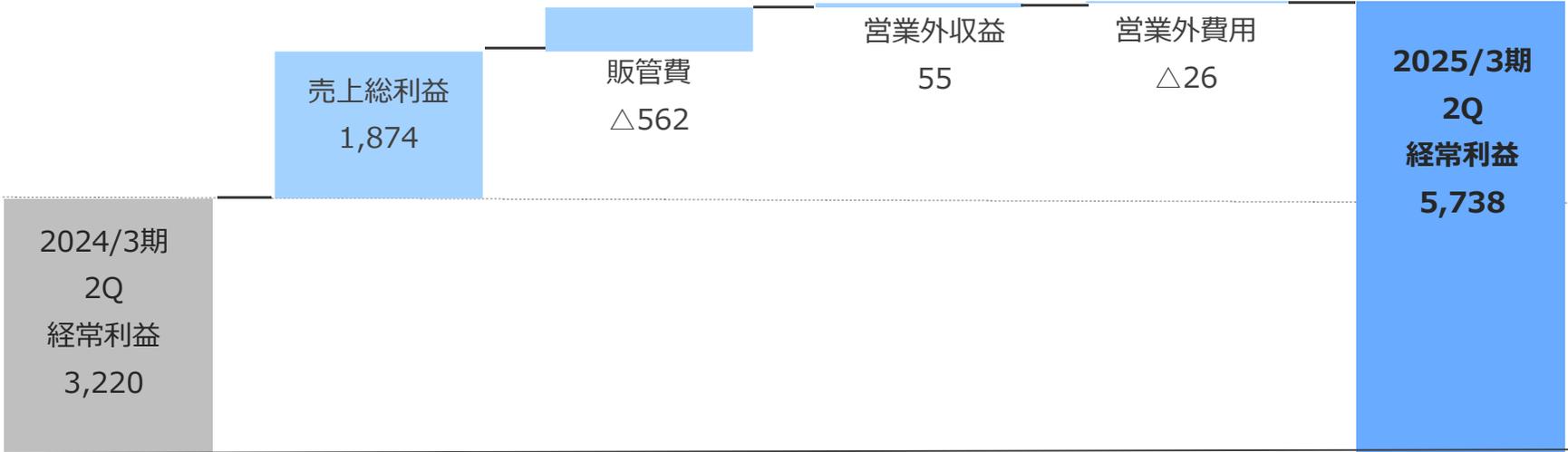




# 利益増減分析（前年同期比）

## 経常利益増減分析

（単位：百万円）



2024年3月期2Q経常利益	3,220	経常利益率 5.6%
売上総利益	1,874	原価改善、設計変更獲得
販管費	△562	本社他移転費用等の昨年度比減
営業外収益	55	受取配当金増、海外関連会社利益増
営業外費用	△26	支払保証料減
2025年3月期2Q経常利益	5,738	経常利益率 8.8%



# セグメント別業績

## セグメント別 受注高・売上高・売上総利益

(単位：百万円、%)		2023.3期 2Q		2024.3期 2Q		2025.3期 2Q		コメント
		実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	
受注高	土木事業	33,220	△20.7%	35,042	5.5%	48,339	37.9%	大規模修繕工事で新規・設計変更の大型受注があり増加
	建築事業	19,592	45.1%	19,091	△2.6%	30,181	58.1%	新規顧客からの大型受注により増加
	製造事業	805	27.6%	978	21.5%	1,472	50.5%	外部受注物件増加
	その他兼業事業	331	8.5%	389	17.4%	410	5.5%	
	<b>合計</b>	<b>53,950</b>	<b>△4.5%</b>	<b>55,502</b>	<b>2.9%</b>	<b>80,404</b>	<b>44.9%</b>	
売上高	土木事業	31,397	△7.6%	36,271	15.5%	37,521	3.5%	関係会社(PSK)増収影響もあり前年比微増
	建築事業	15,008	△20.3%	20,030	33.5%	25,445	27.0%	繰越高の増加、手持工事の順調な進捗により増収
	製造事業	805	27.8%	978	21.5%	1,472	50.5%	外部売上高物件増加
	その他兼業事業	329	7.9%	388	17.9%	410	5.6%	
	<b>合計</b>	<b>47,540</b>	<b>△11.6%</b>	<b>57,669</b>	<b>21.3%</b>	<b>64,851</b>	<b>12.5%</b>	
売上総利益	土木事業	5,799	△6.1%	6,008	3.6%	7,394	23.1%	原価改善、設計変更獲得により増益
	建築事業	1,063	△44.3%	2,461	131.5%	2,887	17.3%	増収に伴う増益
	製造事業	16	△74.2%	4	△75.0%	49	1053.6%	外部売上高物件増加に伴う増益
	その他兼業事業	165	7.1%	139	△15.8%	156	12.2%	
	<b>合計</b>	<b>7,044</b>	<b>△15.2%</b>	<b>8,613</b>	<b>22.3%</b>	<b>10,488</b>	<b>21.8%</b>	



# 土木事業

## 業界環境

- 事業の柱であるNEXCOの大規模更新・修繕事業は、大型案件の発注遅れが見られるものの、引き続き高い水準での発注が見込まれる
- 今年度より適用された時間外労働の上限規制への対応として、現場業務の外注化やICT等の活用による効率化を推進

## 業績推移



- 受注高：大規模更新工事等で新規・設計変更受注があり前年比38%増加
- 売上高：手持工事の進捗に加え、関係会社の増収影響もあり前年比4%増加
- 売上総利益：原価改善、設計変更獲得により増益。前年比23%増加

### 主な大型受注案件

工事名	工事概要
米子自動車道 山生高架橋床版取替工事	床版取替:約4.6千㎡
北陸自動車道 加賀IC～片山津IC間床版取替工事その2	床版取替：約1.7千㎡、継続契約方式案件
金沢外環状道路 浅野川うみかん大橋 (P9-A2)	PC10径間連続中空床版橋 橋長：292m

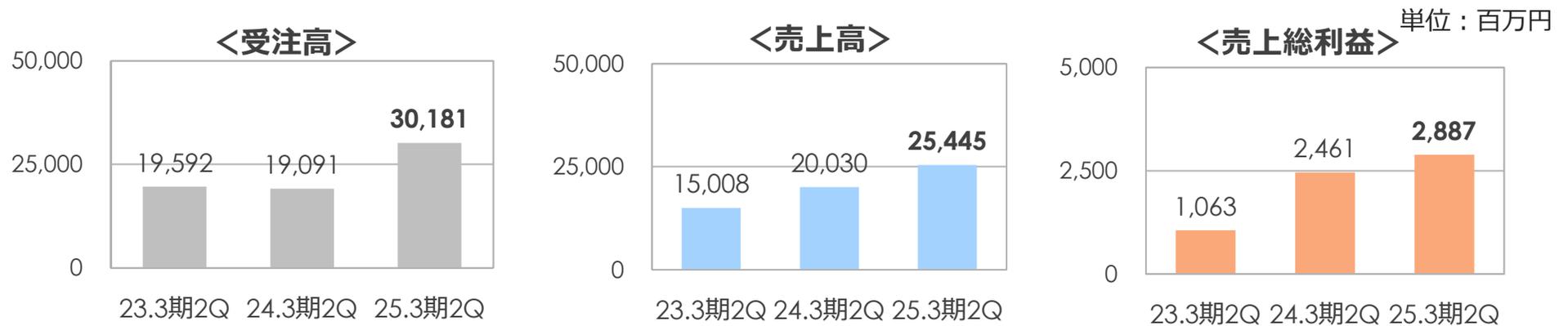


# 建築事業

## 業界環境

- 事業環境全体としては、企業の設備投資意欲は引き続き堅調に推移している
- 時間外労働上限規制の適用開始、建設就業者数も減少傾向にあり、人手不足問題は深刻な状況となっている
- 当社が得意とし省人化が可能なPCa（プレキャスト）建築へさらなる取り組み強化を図っていく

## 業績推移



- 受注高：受注環境改善に伴い、新規顧客からの大型受注獲得により増加
- 売上高・売上総利益：繰越高の増加、手持工事の順調な進捗により増収増益

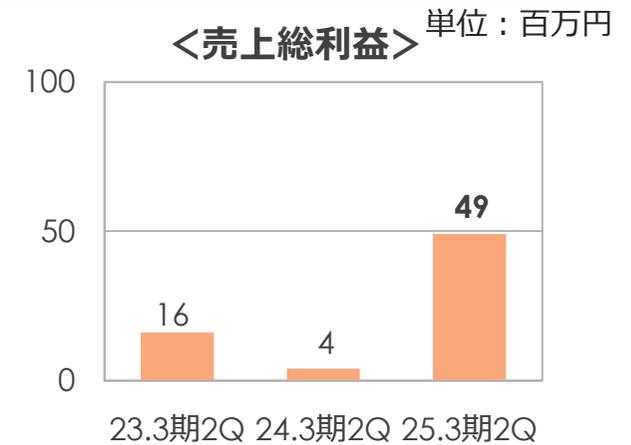
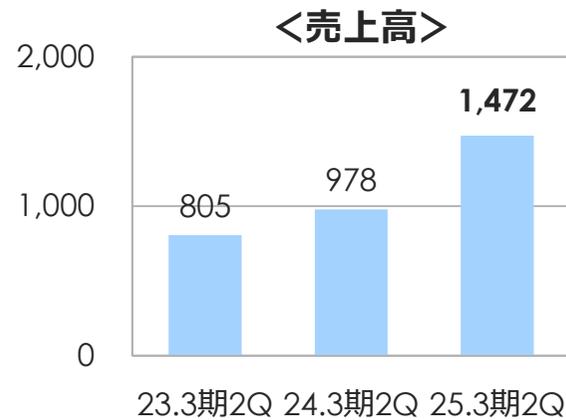
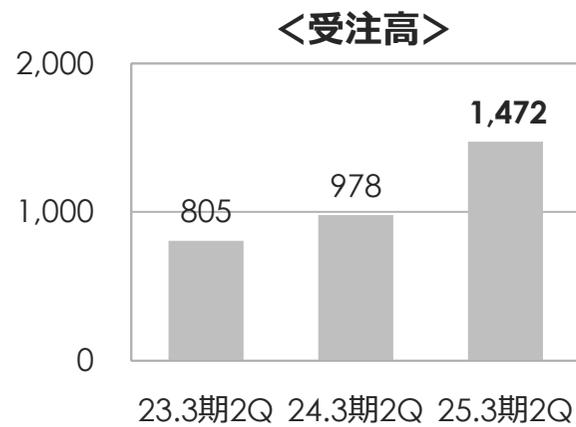
### 主な大型受注案件

工事名	工事概要	
某運動選手養成所新築工事	運動・競技場施設 S造及びRC造、一部SRC造3階建	延床面積 約13,000㎡
某食品工場新築工事	食品工場 S造3階建	延床面積 約15,000㎡
某工作機械製作工場増改築工事	工場・事務所 S造3階建	延床面積 約11,000㎡



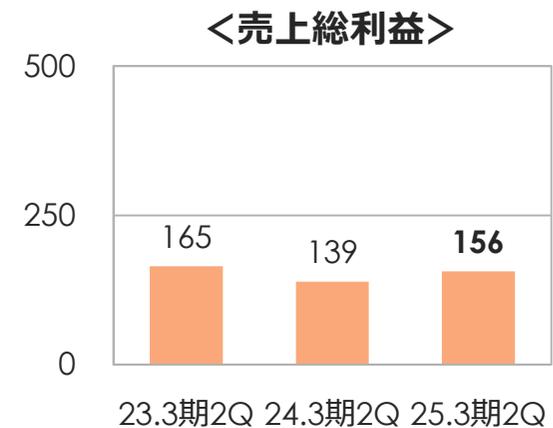
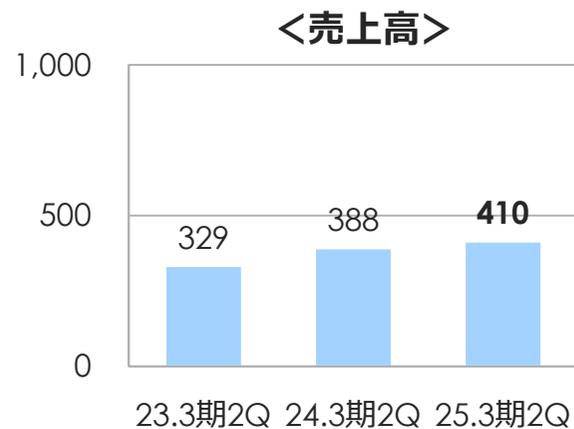
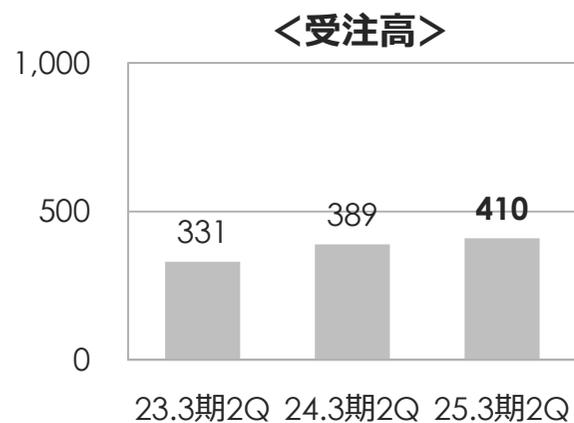
# 製造事業及びその他兼業事業

## 製造事業 - 業績推移



## その他兼業事業 - 業績推移

単位：百万円





# 貸借対照表

## 連結貸借対照表の主な項目

(単位：百万円)	2023.3期	2024.3期	2025.3期 2Q		コメント
	実績	①実績	②実績	前期末比 (②-①)	
<b>資産合計</b>	<b>116,082</b>	<b>122,118</b>	<b>117,286</b>	<b>△ 4,832</b>	
流動資産	91,643	95,503	91,575	△ 3,928	
現金預金	9,347	11,163	10,522	△ 641	売掛債権回収による増加を借入金返済、仕入債務等の支出が上回り641百万円減少
電子記録債権	1,238	1,436	1,615	179	売掛債権回収による増加
未成工事支出金	2,500	2,455	3,135	680	工事進捗による増加
受取手形、完成工事未収入金及び契約資産等	74,222	75,832	70,086	△ 5,746	売掛債権回収による減少
固定資産	24,438	26,614	25,710	△ 903	
有形固定資産	16,294	16,642	16,551	△ 90	減価償却費計上により91百万円減少
無形固定資産	99	188	319	130	新会計システム関連支出による増加
投資その他の資産	8,044	9,783	8,839	△ 944	投資有価証券433百万円、繰延税金資産379百万円の減少等
<b>負債合計</b>	<b>68,210</b>	<b>69,947</b>	<b>62,904</b>	<b>△ 7,043</b>	
流動負債	58,118	54,293	47,386	△ 6,907	仕入債務等3,701百万円、借入金4,298百万円等の減少
短期借入金	26,493	11,178	6,879	△ 4,298	
固定負債	10,091	15,653	15,518	△ 135	借入金180百万円返済による減少等
長期借入金	3,400	9,060	8,880	△ 180	
<b>純資産合計</b>	<b>47,872</b>	<b>52,170</b>	<b>54,381</b>	<b>2,210</b>	
株主資本	45,096	47,974	50,439	2,465	純利益3,733百万円計上、支払配当金1,279百万円
その他包括利益累計額	2,775	4,195	3,941	△ 254	評価差額金280百万円減少
<b>負債純資産合計</b>	<b>116,082</b>	<b>122,118</b>	<b>117,286</b>	<b>△ 4,832</b>	

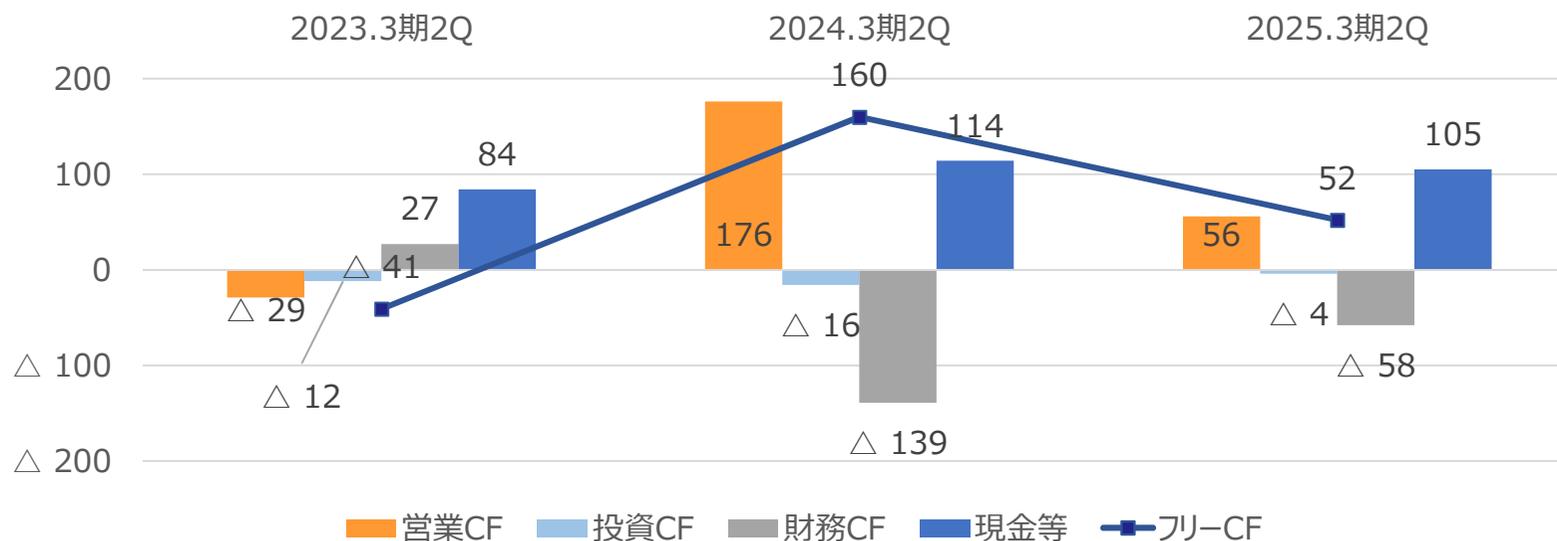


# キャッシュ・フロー

## 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

### キャッシュフロー推移



	2023.3期2Q	2024.3期2Q	<b>2025.3期2Q</b>
営業CF	△ 29	176	<b>56</b>
投資CF	△ 12	△ 16	△ 4
フリーCF	△ 41	160	<b>52</b>
財務CF	27	△ 139	△ 58
現金等	84	114	<b>105</b>



## 2. 2025年3月期 業績予想



# 各セグメントの外部環境と今後の見通し

## 土木事業

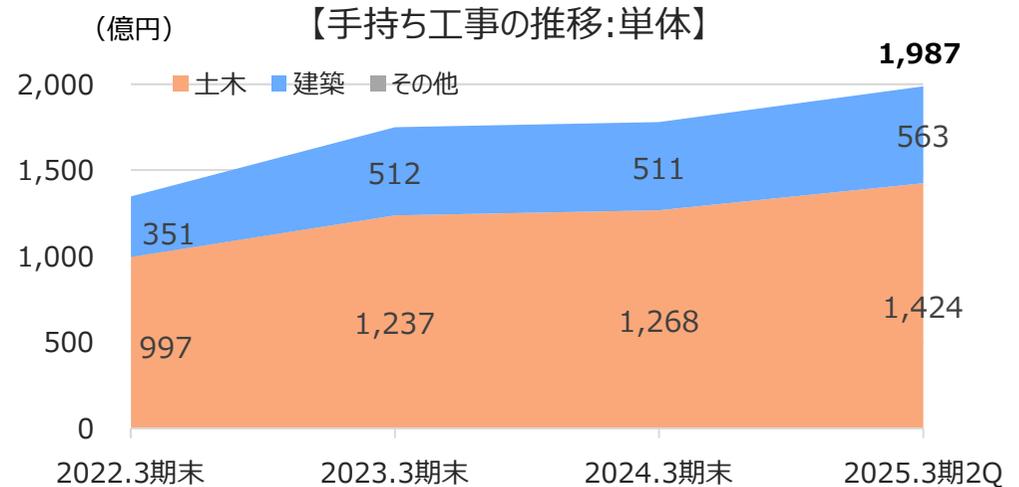
- 2024年度の公共事業関係費は、ほぼ前年並みと見込む。特に、事業の柱となっているNEXCOの大規模更新・修繕事業は、大型案件の発注遅れが見られるものの、引き続き高い水準での発注が継続されると予測
- NEXCO3社・本四・首都高・阪高における大規模更新修繕の総事業費は、約5.5兆円で契約率は約48%（2023年12月時点）。また、新たに更新が必要とされる事業費が約1.5兆円。その内、NEXCOの橋梁に関しては約0.7兆円で、主な対策は「床版取替、桁の架替、グラウト再注入」
- 高速道路の暫定2車線区間の4車線化を順次事業化しており、今年度は約57kmを事業化（約3,560億円）

## 建築事業

- 民間設備投資は、半導体関連工場やEV関連工場の誘致政策の効果もあり比較的好調に推移
- 倉庫・流通施設は、倉庫スペースの拡張や物流網の増強といった需要に支えられ高水準で推移しているが、エリアによっては供給過多となり頭打ちと見込まれる
- 全国的な技能労働者不足や時間外労働の上限規制を背景に、当社が得意とし技能労働者削減が期待できるPCa建築への需要を見込む
- カーボンニュートラル実現に向けた「フロー型」から「ストック型」重視の潮流により、今後リニューアル工事の需要は高まると予想

## 手持ち工事量は1,987億円で高水準を維持

- 土木事業では大規模更新・修繕事業を主軸に1,424億円、建築事業についても563億円で高水準を維持しております
- 時間外労働の上限規制などを踏まえ、現場支援体制の強化や外注化等を積極的に行い、効率的な消化生産体制の整備やDXの更なる加速により生産性の向上に努めてまいります



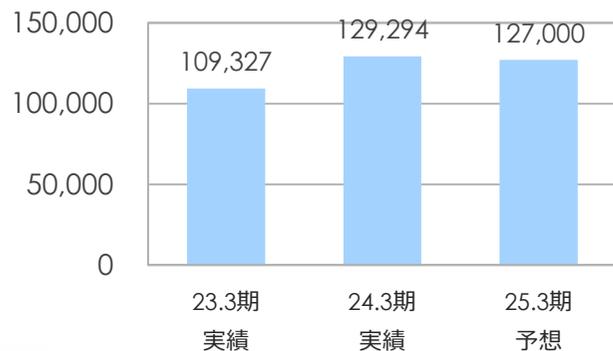


# 業績予想

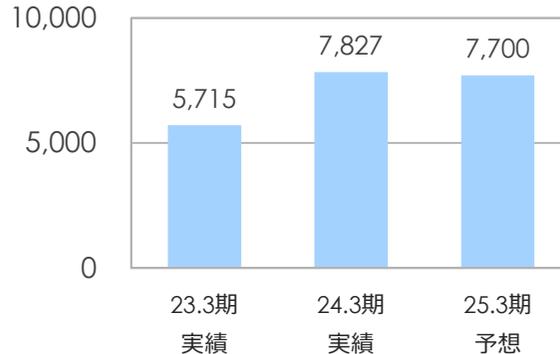
## 連結業績予想

(単位：百万円、%)	23.3期		24.3期		25.3期		コメント
	実績	前年比	実績	前年比	予想	前年比	
売上高	109,327	△0.3	129,294	18.3	127,000	△1.8	土木、建築事業とも繰越工事も多く、前年並み
売上総利益	15,527	△1.5	18,787	21.0	18,090	△3.7	土木事業は前年並み、建築事業は減益予想
営業利益	5,715	△13.6	7,827	37.0	7,700	△1.6	営業利益、経常利益、当期純利益は前年並み
経常利益	5,629	△15.3	7,743	37.6	7,600	△1.9	
親会社株主に帰属する当期純利益	3,790	△16.5	5,054	33.4	5,000	△1.1	
1株当たり年間配当金（円）	33.0		44.0		44.0		配当性向40%以上を予定

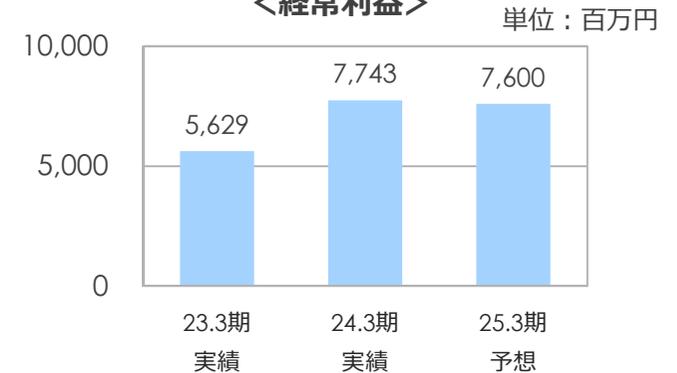
<売上高>



<営業利益>



<経常利益>





# セグメント別業績予想

## セグメント別受注高・売上高・売上総利益

(単位：百万円、%)		23.3期	24.3期	25.3期		コメント
		実績	実績	予想	前年比	
受注高	土木事業	95,321	82,234	76,000	△7.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木事業は手持ち工事も多く、今年度より適用される残業時間上限規制も考慮し、利益重視の選別受注を予定</li> <li>建築事業は、競争環境は比較的好転してきているが、土木同様、手持ち工事が多い状況であり、若干減少見込み</li> </ul>
	建築事業	52,757	48,233	45,000	△6.7	
	製造事業	1,901	1,698	900	△47.0	
	その他兼業事業	640	730	1,100	50.6	
	合計	150,621	132,896	123,000	△7.4	
売上高	土木事業	70,247	78,451	76,700	△2.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木事業は、繰越工事高の増加、手持ち工事の順調な進捗を見込むも微減</li> <li>建築事業は、前年並みを見込む</li> </ul>
	建築事業	36,536	48,414	48,300	△0.2	
	製造事業	1,901	1,698	900	△47.0	
	その他兼業事業	641	730	1,100	50.6	
	合計	109,327	129,294	127,000	△1.8	
売上総利益	土木事業	12,512	13,445	13,400	△0.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木事業は、設計変更などを織り込み、ほぼ前年並みを見込む</li> <li>建築事業は、繰越工事で一部低採算案件もあり減益見込み</li> </ul>
	建築事業	2,723	4,872	4,300	△11.8	
	製造事業	23	142	90	△36.7	
	その他兼業事業	268	326	300	△8.2	
	合計	15,527	18,787	18,090	△3.7	



### 3. 中期経営計画2022の進捗



# 中期経営計画2022の進捗

## 2025.3期第2四半期業績実績と中計数値目標の進捗状況

(単位：百万円)		2025.3期 2Q実績		2025.3期 中計目標		目標差額	達成率 %	コメント
受注高	土木事業	48,339		75,100		26,761	64%	土木事業:大規模更新・修繕事業、新設橋梁継続 受注 建築事業:受注環境改善により新規顧客から大型 案件獲得
	建築事業	30,181		45,000		14,819	67%	
	製造事業	1,472		1,800		328	82%	
	兼業事業	410		1,100		690	37%	
	合計	80,404		123,000		42,596	65%	
売上高	土木事業	37,521		73,100		35,579	51%	土木・建築とも潤沢な手持工事が順調に進捗 関係会社増収
	建築事業	25,445		45,000		19,555	57%	
	製造事業	1,472		1,800		328	82%	
	兼業事業	410		1,100		690	37%	
	合計	64,851		121,000		56,149	54%	
売上 総利益	土木事業	19.7%	7,394	17.1%	12,500	5,106	59%	売上高増加による増収影響 設計変更獲得、原価改善による増益 中間時点で利益率1.7ポイント改善
	建築事業	11.3%	2,887	10.0%	4,500	1,613	64%	
	製造事業	3.3%	49	11.1%	200	151	25%	
	兼業事業	38.0%	156	27.3%	300	144	52%	
	合計	16.2%	10,488	14.5%	17,500	7,012	60%	
販売費及び一般管理費		7.3%	4,741	8.4%	10,200	5,459	46%	
営業利益		8.9%	5,747	6.0%	7,300	1,553	79%	
経常利益		8.8%	5,738	6.1%	7,400	1,662	78%	売上総利益好転影響
中間純利益		5.8%	3,733	4.0%	4,900	1,167	76%	



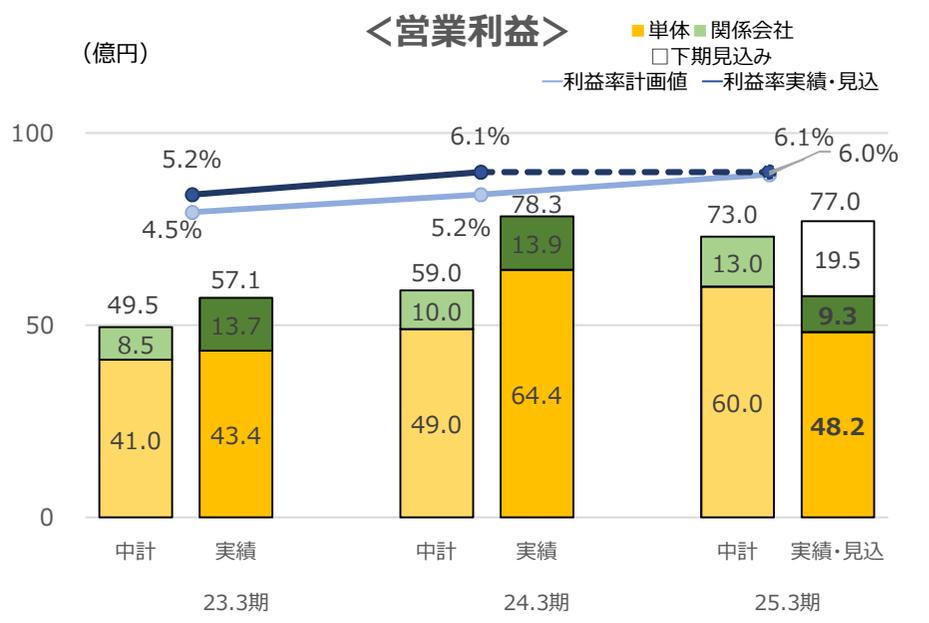
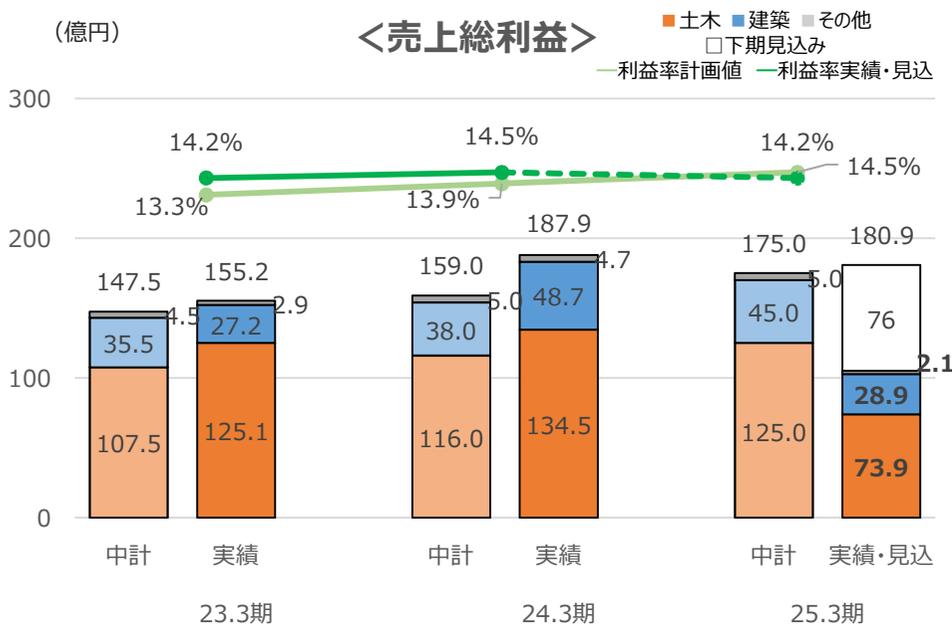
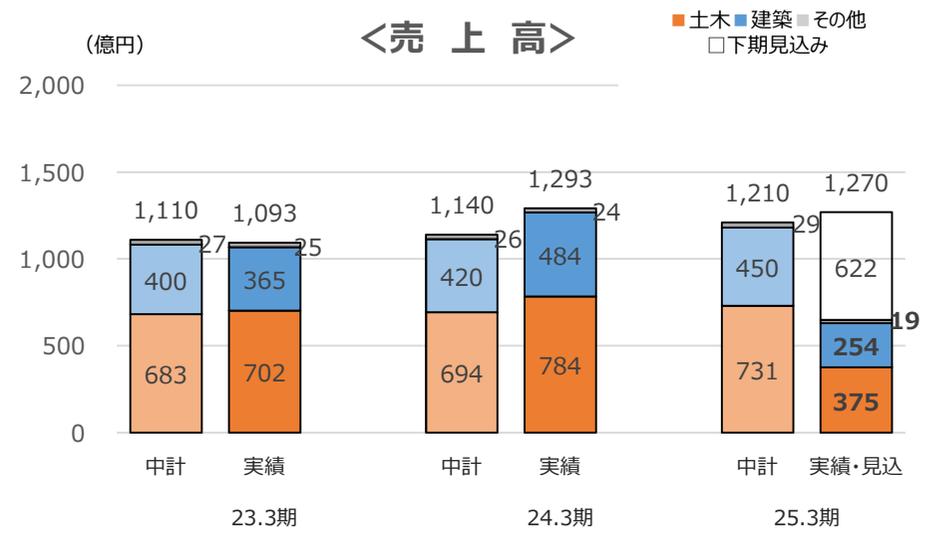
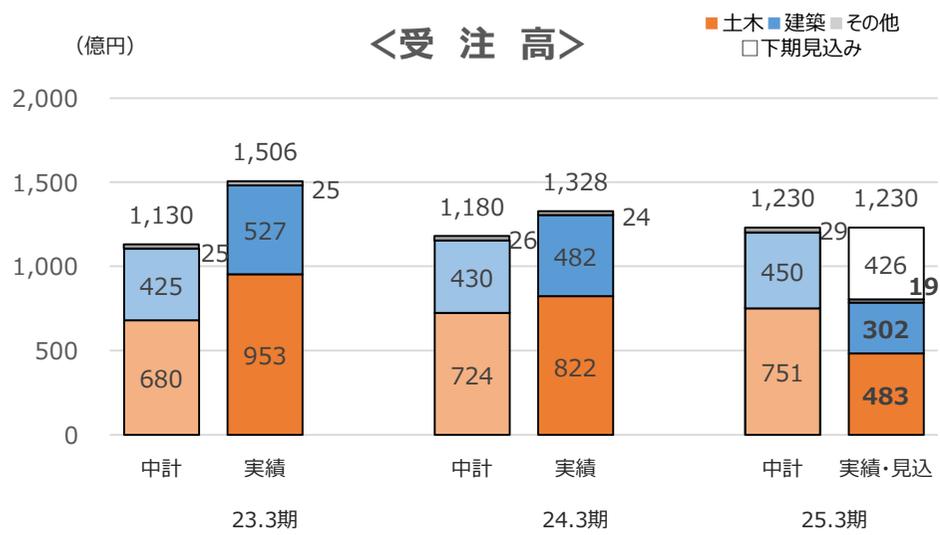
# 中期経営計画2022の進捗

## 2025.3期業績予想と中計数値目標との対比

(単位：百万円)		25.3期 予想		25.3期 中計目標		25.3期と中計目標 との差額	コメント
受注高	土木事業	76,000		75,100		900	
	建築事業	45,000		45,000			
	製造事業	900		1,800		△900	
	兼業事業	1,100		1,100			
	合計	123,000		123,000			
売上高	土木事業	76,700		73,100		3,600	
	建築事業	48,300		45,000		3,300	
	製造事業	900		1,800		△900	
	兼業事業	1,100		1,100			
	合計	127,000		121,000		6,000	繰越工事も多く、増収予想
売上 利益	土木事業	17.5%	13,400	17.1%	12,500	900	増収と利益率改善を想定
	建築事業	8.9%	4,300	10.0%	4,500	△200	低採算物件もあり保守的に見込む
	製造事業	10.0%	90	11.1%	200	△110	
	兼業事業	27.3%	300	27.3%	300		
	合計	14.2%	18,090	14.5%	17,500	590	
販売費及び一般管理費		8.2%	10,390	8.4%	10,200	150	
営業利益		6.1%	7,700	6.0%	7,300	400	
経常利益		6.0%	7,600	6.1%	7,400	200	
当期純利益		3.9%	5,000	4.0%	4,900	100	



# 中期経営計画2022の進捗



# 主要テーマの進捗状況（土木事業）

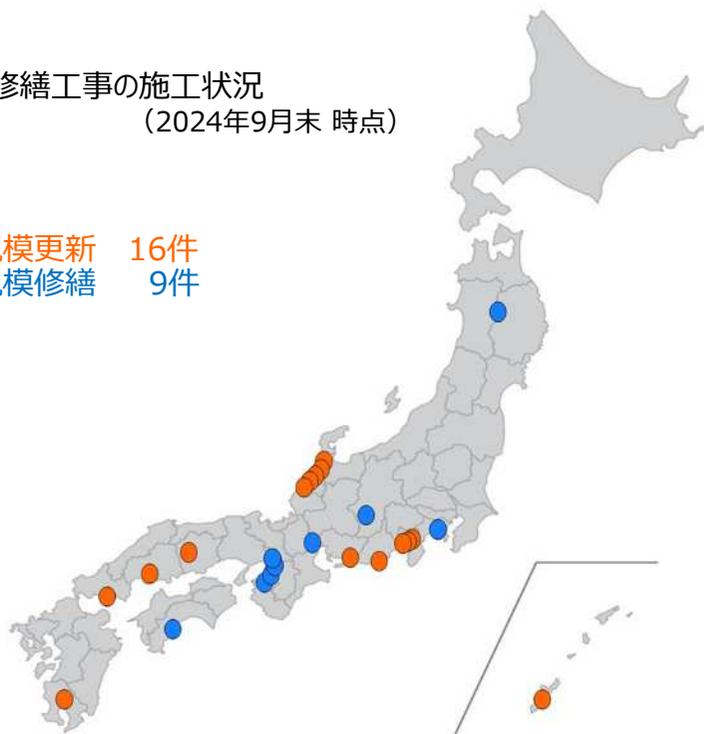
## 大規模更新・修繕工事を主力事業として発展・成長させる

NEXCOをはじめとする高速道路会社からの大規模更新・修繕事業は、大型案件の発注遅れが見られるものの、高水準の発注を維持する見込み。

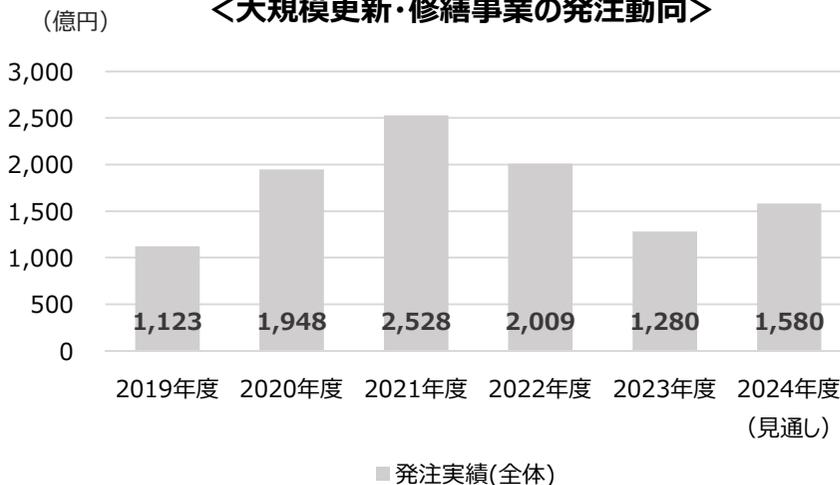
- 上期の受注実績：159億円
  - ・新規契約：山生高架橋床版取替
  - ・継続契約：加賀IC～片山津IC床版取替など
- 順調に受注を獲得しており、中計2022の受注目標を概ね達成。

大規模更新・修繕工事の施工状況  
(2024年9月末時点)

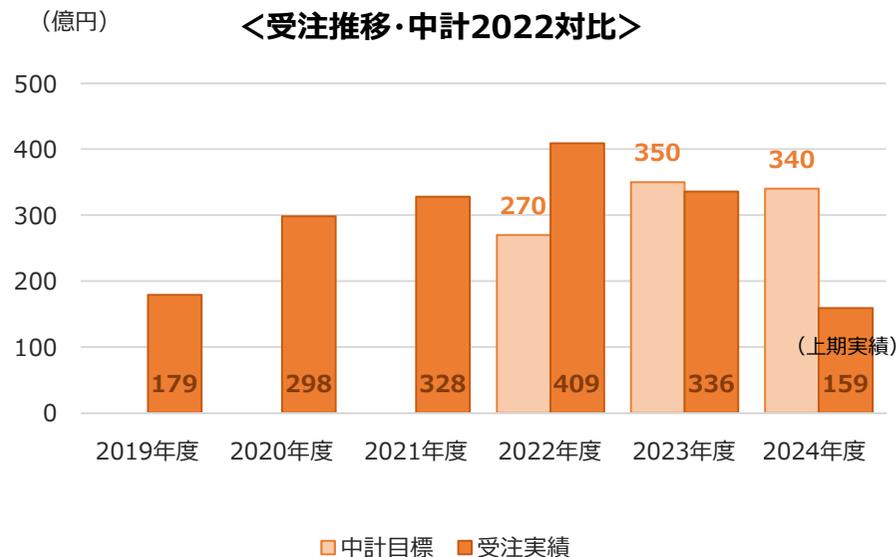
- 大規模更新 16件
- 大規模修繕 9件



＜大規模更新・修繕事業の発注動向＞



＜受注推移・中計2022対比＞



※受注実績には、設計変更、下請を含む

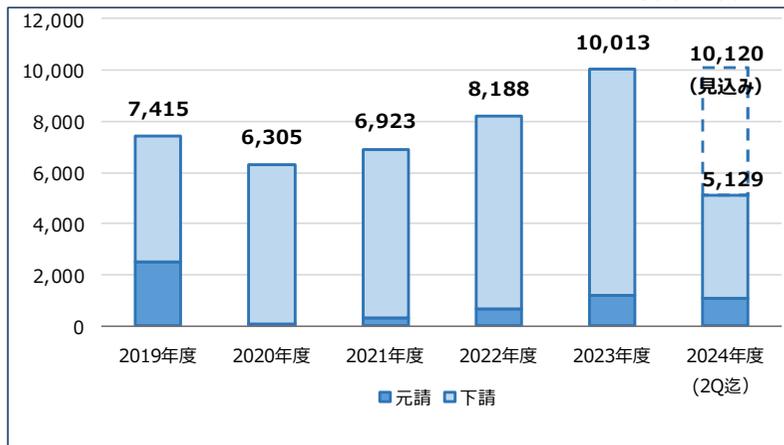
# 主要テーマの進捗状況（建築事業）

環境配慮、省人化、工期安定（短縮）に優位性があるプレキャスト工事（PC/RC）に注力

## プレキャスト(PCa)工事（PC/RC）売上推移

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (2Q迄)
元請	2,486	99	305	661	1,181	1,103
下請	4,930	6,205	6,619	7,528	8,832	4,025
<b>合計</b>	<b>7,415</b>	<b>6,305</b>	<b>6,923</b>	<b>8,188</b>	<b>10,013</b>	<b>5,129</b>

(単位：百万円)



- プレキャスト工事の売上推移は、2019年度には大型PCaPC元請工事の売上により74億と跳ね上がり、翌期に一度低下するものの、その後は順調に推移
- 2024年度は、下請工事は低下するものの、2022年度に受注した福岡中央病院（大型PCaPC元請工事）の売上が大きく寄与し、101億程度を見込む

## 福岡中央病院建替計画（PCaPC）について



完成予想パース図  
2025年11月竣工予定



躯体工事施工中



現場見学会状況

### プレキャスト拡大に向けた現場見学会実施

プレキャスト工事を広くPRすることを目的として、現在施工中の福岡中央病院建替計画工事現場において、医療関係者や各設計事務所、一般法人顧客、大学研究室等を対象とした現場見学会を複数回実施（2024年9月～2025年3月まで実施予定）し、プレキャスト工事拡大に向けた取り組みを行っております

### 今後の取り組みとして

高品質管理がされたプレキャスト技術を活かし、今後も需要が見込まれる、半導体関連の大型工場、データセンター、教育施設並びに防衛省案件の受注に注力してまいります



# 主要テーマの進捗状況（技術開発）

## 大規模更新事業 低空頭タイプの床版架設機の開発と現場適用

- 上空の交差条件により標準的な大型クレーンによる施工が不可能な場合への対応として、低空頭タイプ 床版撤去架設機を開発
- 昨年度、実物のPCaPC床版を用いて試験施工を実施し、施工サイクル及びPC床版の運搬方法等を検証
- 2024年6月及び9月、北陸自動車道 金沢高架橋東の現場に適用し、工程通りに床版撤去架設を完了  
⇒大型クレーンによる施工と同等の施工工程を実現
- 今後、更なる省力化・工程短縮への適用可能性を検証



低空頭タイプ 床版架設機の施工状況

## 環境負荷低減コンクリートの研究開発と実用化

- 超低炭素型コンクリートの開発
  - プレテンション方式プレキャスト部材にも適用可能な超低炭素型コンクリート（最大でセメント材料の90%を高炉スラグに置換し、CO2排出量を70%削減）の配合を決定し、耐久性の検証中。11月に実物大のPC桁を製作し製作性と構造性能を確認
  - 土木プレキャスト部材の他、建築プレキャスト部材への適用に向けて工場での実機配合試験を開始
- スチームレスプレキャストコンクリート（SLPC）の実用化
  - コンクリート工場で作成する際、コンクリート強度の発現を促進するために「蒸気養生」が行われる
  - この蒸気養生を無くすことで、コンクリート材料由来のCO2も含めた、全CO2排出量の12%を削減
  - 2023年度に岡山県下庄跨線橋（その3工事）で初採用され、2024年11月に竣工



SLPCを用いたPC桁（製作工場ヤード）



SLPCを用いた橋梁（完成）



# Appendix. 参考

# 会社概要・沿革



## 会社概要

名 称	ピーエス・コンストラクション株式会社
本 社	〒105-7365 東京都港区東新橋一丁目9番1号 東京汐留ビルディング18階 Tel (03)-6385-9111
設 立	1952年3月1日
資 本 金	42億1,850万円
上 場	東京証券取引所プライム
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.プレストレストコンクリート（PC）工事の請負ならびに企画、設計、施工監理</li> <li>2.土木一式工事、建築一式工事の請負ならびに企画、設計、施工監理</li> <li>3.土木建築構造物の維持、補修に関する事業</li> <li>4.プレストレストコンクリート（PC）製品及びプレキャスト・コンクリート製品の製造、販売ならびにそれらの製造用具および附属資材部品の製作、販売</li> <li>5.プレストレストコンクリート（PC）工事用機械器具その他建設用機械器具の設計、製作、販売および賃貸</li> <li>6.鉱物の採掘及びその請負</li> <li>7.不動産の売買、賃貸及びそれらの仲介ならびに所有管理</li> <li>8.運送業及び倉庫業</li> <li>9.損害保険代理業及び生命保険の募集に関する業務ならびに自動車損害賠償保障法に基づく保険代理業</li> <li>10.前各号に関連ある一切の業務</li> </ol>

## 沿革

	(株)ピー・エス	三菱建設(株)
1952	東日本重工業（現 三菱重工業(株)）七尾造船所の諸施設及び 従業員を引き継ぎピー・エス・コンクリート(株)を設立	
1960		三菱鉱業(株)ほか三菱系列企業10社が発起人となり、新菱建設(株)設立
1969		三菱建設(株)に社名変更
1991	(株)ピー・エスに社名変更	
2002	合併により(株)ピーエス三菱発足	
2004	ベトナムにて VINA-PSMC Precast Concrete Co., Ltd .設立	
2012	インドネシアにてPT. Wijaya Karya Komponen Beton社設立	
2022	東京証券取引所市場第一部からプライム市場へ移行	
2023	大成建設(株)による株式公開買付けにより、同社が親会社へ異動	
2024	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係会社である(株)ピーエスケーが、PC工事向けコンクリート二次製品用鋼製型枠及び架設機材の設計・製作を目的とする関係会社、(株)東葉製作所を子会社化</li> <li>・ (株)ピーエス三菱からピーエス・コンストラクション(株)に社名変更</li> </ul>	

# グループネットワーク

## ピーエス・コンストラクショングループ（主要国内5社）



- 支店
  - ・東京土木支店
  - ・東京建築支店
  - ・札幌支店
  - ・東北支店
  - ・大阪支店
  - ・名古屋支店
  - ・広島支店
  - ・九州支店

営業所 ・22箇所

株式会社ピーエスケー



PC工事における機材の企画・設計・製作・賃貸・販売、資材の製造・販売及びこれらの運用・活用に関するエンジニアリング

株式会社ニューテック康和



道路・鉄道・港湾等の構造物のメンテナンス、リニューアル

ピー・エス・コンクリート株式会社



PC製品の製造販売

菱建商事株式会社



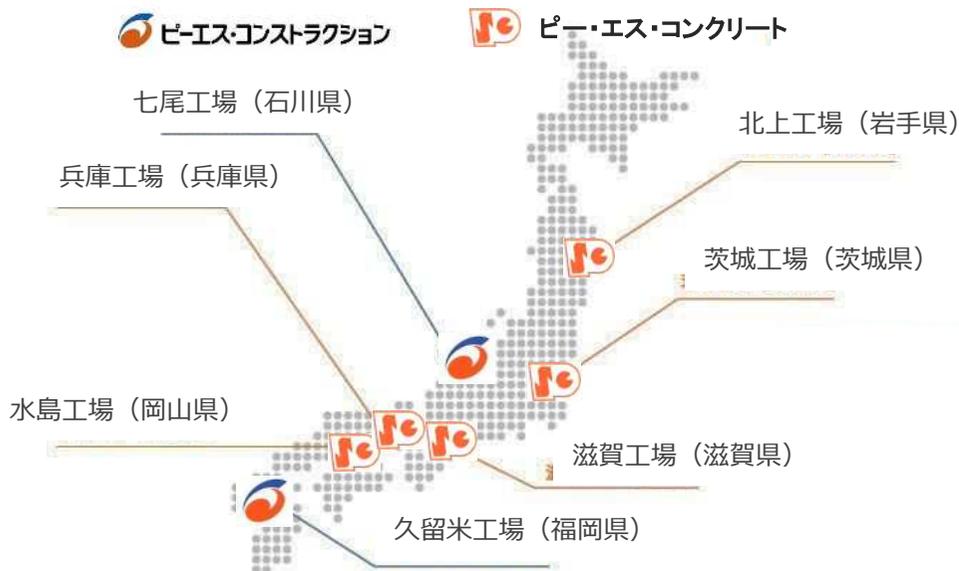
建築資材販売、物流、不動産関連など

菱建基礎株式会社

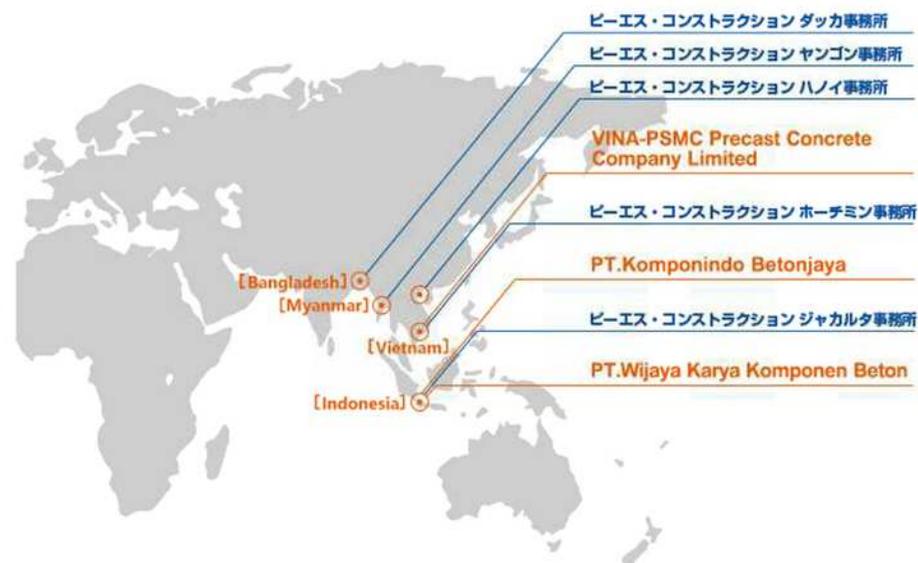


土木・建築構造物の基礎工事など地下分野の総合専門工事

## 国内工場ネットワーク



## 海外ネットワーク





# 事業構成

## 建築建設事業

### 【強み】

- プレキャスト（PCa）工法により高品質・高強度の部材を安定的に供給が可能
- 独創的なPC建築から一般建築まで優れた企画提案力で幅広い顧客基盤を持つ
- 高度な技術力により様々なニーズに対応した構築物を提供
- PC工事その他一般建築工事の請負
- PC製品の製造販売



桑名市津波避難施設

## 製造事業

- コンクリート製品の製造販売



## 土木建設事業

### 【強み】

- 日本におけるプレストレストコンクリート（PC）の実用化に初めて成功し、PCのパイオニアとして、多くの橋梁施工実績
- PC業界のトップカンパニーとして、多くの技術を開発し、国土基盤の整備に貢献
- 鉄道・空港・港湾・橋梁下部工・上下水道・発電所・防災などPC橋梁のみならず、様々な土木全般の事業を展開

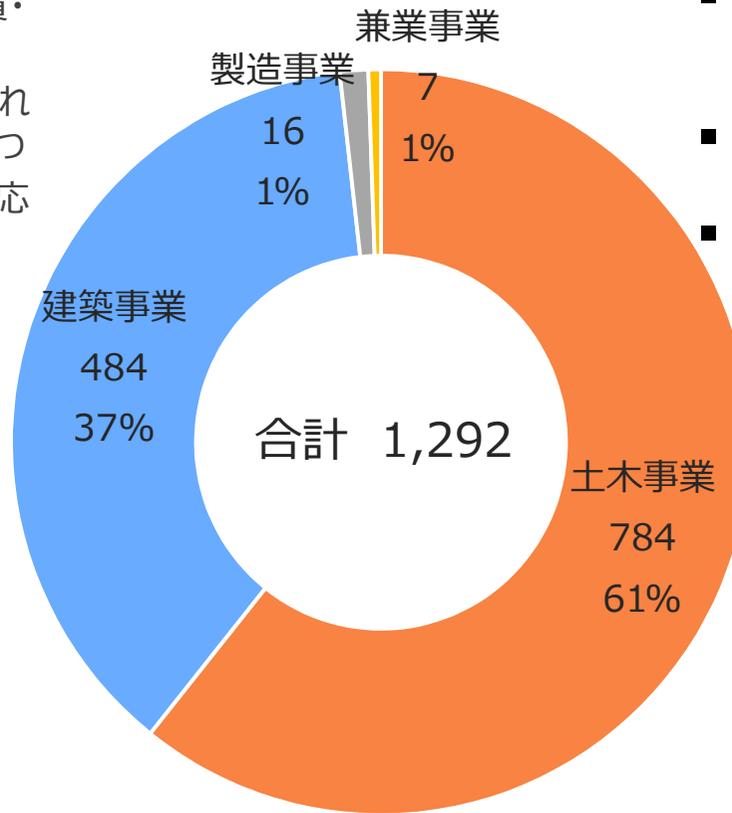


常磐自動車道大久川橋

## その他兼業事業

- 不動産の販売・賃貸・仲介
- 損害保険代理店事業

## セグメント別売上高



セグメント別売上高・構成比率  
(2024.3月期 単位：億円)

# プレストレストコンクリート（PC）技術とプレキャスト（PCa）技術とは

## プレストレストコンクリート（PC）とは

PCは「高強度の鋼材によって、あらかじめ（プレ）応力（ストレス）を与えられたコンクリート」のことです

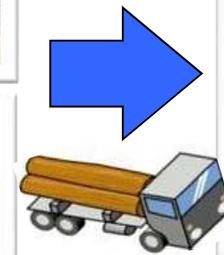
- コンクリートの最大の弱点である“引張には弱い”を克服することができます
- 圧縮する力を与えることで、大きな引っ張る力が作用してもひび割れを制御することができます
- 上記により、梁の高さを抑えながら、その長さを大きく取ること（大スパン化）ができます



## プレキャスト（PCa）とは

現地以外の工場などで、あらかじめコンクリート部材を製作することです

- 工場で生産されるため、高品質・高精度で、高耐久を有しております
- 現場で型枠を組みコンクリートを施工する場合より、騒音や粉じんの発生を抑え周辺の環境に優しい工法です
- 工場で部材を製作する為、現場作業の省力化・スピード化が図れます





# DXに対する取り組み

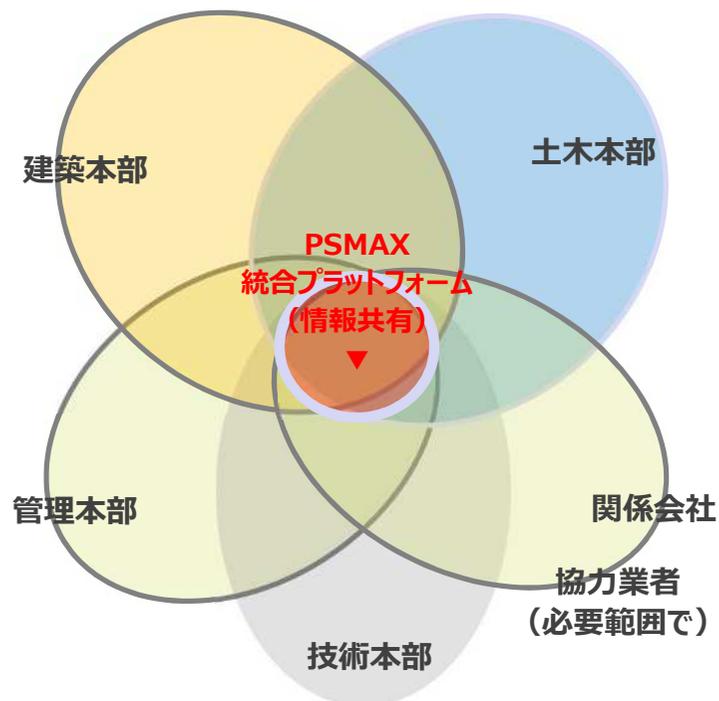
## 全社横断的組織により生産性向上に向けたシステム構築を推進

- デジタル技術の活用によって、建設事業やビジネスモデルを変革
  - 生産性向上、企業の社会的責任（CSR）
- 全社横断的組織により生産性向上に向けたシステム構築を推進
- 2024年2月、PSMAXをより推進させるために新たな方針を決定

### 【開発方針】

ピーエス・コンストラクションMore Advanced Construction System(PSMACS)

より進化したピーエス・コンストラクショングループの建設システム



- 建設プロセスのデジタルライゼーションと自動化
- デジタル技術を活用した技術の伝承および人材育成

本ビジョンのもと、チャレンジする風土を醸成し、品質と生産性を向上させ、さらには企業価値の向上につなげる

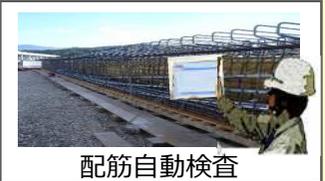
# DXに対する取り組み

## PSMAX システム概要



調査・設計・施工

維持管理



PSMAX統合プラットフォーム

### CLOUD

■情報共有  
(収集・蓄積・分析・3Dモデリング)



自動調書化・データ可視化

【作業所】

【本支店・事務所】

モニタリング

レポート共有

モバイルデバイス



#### 将来予測に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。このため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめ御了承ください。

#### IRに関するお問い合わせ先

ピーエス・コンストラクション株式会社 管理本部 総務部 広報・IRグループ  
〒105-7365 東京都港区東新橋一丁目9番1号 東京汐留ビルディング  
TEL : 03-6385-8002 FAX : 03-6316-2321 メールアドレス : koho.ir@psc.co.jp

PR動画はこちらから

